

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： 富山大学		
上位関連計画にみる地域の将来		
○バリ協定における日本の目標：2013年度比で2030年までに26%削減、さらに2050年までに80%削減		
○第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量／実質GDP）35%減。		
○富山市の人口：（現在）416,175人 <sup>注1)</sup> 、（2030年）394,657人 <sup>注2)</sup> 、（2045年）356,918人 <sup>注2)</sup>		
注1:富山市>統計データ>人口と世帯 注2:日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）国立社会保障・人口問題研究所		
【第2次富山市総合計画（H29-H38）に示された将来目標】		
指標	基準値	目標値
森林ボランティア団体数	56団体(H27)	66団体
チームとやましメンバー数	21,545人（H28）	22,045人
温室効果ガス排出量の削減割合	-(H17)	30%減(2030年)
事業所の新規開業率	5.9%（H26）	7%
新規事業所解説による雇用者数	14,195人（H24-26平均）	17,000人
公募提案型協働事業応募団体数	7.6団体（H24-28平均）	8団体

②具体的なアクション ※誰が何をするのか、主なものをお書きください。	
実施主体	実施内容
A.富山大学	①富山湾のプラごみ調査、②神通川、常願寺川のゴミ調査→海洋汚染経路の明確化
	③里山・森林調査→里山・森林荒廃の可視化。 (①、②の調査結果は、小中高生を対象としたESD教材として活用。①には高校生も参加。)
B.民間企業	③の調査の成果を活かした、里山・森林の活用。
A、B協働	民間先導で市内に協働思考の場を設置。→産学官民金による主体的な連携による地域循環共生圏づくりの推進

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	実績値 (2020年度末)	単位
環境	地域の取り組み状況	川ゴミ調査の調査面積	0	1,000		ha
	地域の取り組み状況	富山湾プラごみの調査面積	0	50		km2
	地域の取り組み状況	里山の調査面積	0	100		ha
	地域の取り組み状況	森林の調査面積	0	100		ha
経済	財源が充実する	サテライトキャンパスでの事業提案数	0	4		件
社会	行動が変わる	サテライトキャンパス参加者数	30	100		人
	行動が変わる	サテライトキャンパス協賛団体数	6	12		社
	郷土への愛着・地域の誇り	メディア掲載回数	3	10		回

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

・富山湾の海洋プラスチックごみ：富山市内を流れる神通川、常願寺川周辺におけるドローンによるゴミ調査、富山湾における船によるゴミ調査を行い、「富山湾のプラスチックごみ」の現状、それがどのように生じているのかを「サテライトキャンパス」での報告会で伝え、「何が問題なのか」を考え、「解決策」を検討する。これらの活動を通して、市民の意識や行動、企業の廃棄物管理を変え、富山湾のプラスチックごみを減らしていく。
・里山・森林の整備：里山・森林をドローンを用いて調査し、里山・森林の現状およびそれらと土砂災害や獣害との関係を報告会で伝え、「何が問題なのか」を考え、「解決策」を検討する。これらの活動を通して里山・森林に関する問題意識を高め、経済活動としての里山・森林の整備・活用を進めて、災害に強い地域をつくる。
・サテライトキャンパス：環境問題の共有を出発点として、その問題を掘り下げ、解決策をビジネスにつなげる産学官民金協働の場とする。また、世代を超えた交流、連携の場とする。

①目指すべき姿 ※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください

【どのような地域にしたいのか】

・自然と共生する地域

プラスチックごみをはじめとする廃棄物の適切な管理および削減、里山・森林の整備、CO2排出削減による温暖化の抑制を進める。これらの活動を通して、立山連峰、富山湾に象徴される美しい自然とその恵みを守りたい。また、里山・森林の整備により、熊や猪などの棲み分けを明確にし、獣害被害をなくしていきたい。

・災害に強い地域

地球温暖化に伴い気象災害が激甚化することが予想されているが、里山・森林を「グリーンインフラ」として整備することにより、土砂災害リスクの低減、河川港湾での流木による被害防止を進めていきたい。

・活力のある地域

産学官民金が「望ましいの富山（地域循環共生圏）」のイメージを共有し、それに向けた社会活動に連携して取り組んでいきたい。その活動を経済性を伴う事業として進め、地域を自律的かつ自立的に発展させていきたい。

【なにを引き継いでいきたいのか】

・飛騨山脈、富山湾などに象徴される、豊かな自然とその恵み

・豊かな自然とその恵みを守ってきた歴史や文化

・自然、歴史、文化に対する地域の誇り

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	富山湾の状況	富山湾のプラスチックごみ	1	0.1	2030年度		個/m3
	里山の状況	里山の整備面積	0	10	2030年度		ha
	森林の状況	森林の整備面積	0	100	2030年度		ha
経済	財源が充実する	サテライトキャンパス発の事業数	0	10	2030年度		件
	財源が充実する	地域材を使った商品開発数	0	5	2030年度		件
社会	行動が変わる	サテライトキャンパス参加者数	30	200	2030年度		人
	行動が変わる	サテライトキャンパス協賛団体数	6	30	2030年度		社
	郷土への愛着・地域の誇り	富山大学から県内への就職	38	42	2030年度		%